

## 日本労働年鑑 第24集 1952年版

The Labour Year Book of Japan 1952

## 第一部 労働者状態

## 第二編 雇用と失業

## 第一章 雇用

## 第五節 学校卒業者卒業後の状況

一九四九学年度学校卒業者の卒業後の状況を、文部省調査普及局の調査についてみれば、つぎのとおりである(「文部統計速報」第四九号)。

(注)調査時期は一九五〇年六月三〇日現在で、卒業後三カ月目の状況である。

すなわち、一九四九学年度の学校卒業者は、新制大学、旧制大学、専門学校、旧制高等学校、旧制大学予科、教員養成諸学校、高等学校、中学校、盲学校、ろう学校あわせて一、九五五、三五〇人(前年に比べ二五三、三八三人増)で、うち男一、〇九七、八六二人、女八五七、四八八人となっている。男の学校卒業者は、四六%が就職し、四〇・九%が上級学校へすすみ、残りの一二・三%が、就職できないか(あるいは就職の意志がないか)、そのほか病気療養中、受験勉強中、消息不明の者である。また、女の学校卒業者は、四三%が就職し、三六・六%が上級学校へすすみ、のこりの一九・七%が、就職できないか、あるいは就職の意志がないか、そのほか病気療養中、受験勉強中、消息不明の者である。これを男女計について前年とくらべれば、就職者率は三%増、上級学校進学者率は五%減、無職および消息不明者の率は一%増となっている。

以下、各学校の種類別にみると

## (1)大学

新制、旧制あわせて卒業者二二、五九五人のうち、六四%が就職し、一四%が上級学校(大学院、インターンなど)へすすみ、残りの二一・五%が無職および消息不明の者である。

## (2)専門学校

卒業者五六、四〇七人のうち、四八%が就職し、二三・八%が上級学校へすすみ、のこりの二七・四%が無職および消息不明の者である。とくに、専門学校を卒業していながら就職できない(あるいは就職の意志のない)者が一四・四%を占めていることは注目に値する。

## (3)高等学校

男の卒業者一九一、一〇七人のうち、四八%が就職し、三三・四%が上級学校にすすみ、残りの一八%が無職および消息不明の者となっている。女は卒業者六二、七一一人で、そのうち三五%が就職し、二三・八%が上級学校にすすみ、のこりの四〇・五%が無職および消息不明の者となっている。

これを男女計について、前年の新制高等学校、旧制中学校卒業者とくらべれば、就職者率は三%減、上級学校進学者率は六%増、無職および消息不明の者の率は五%減となっている。

(4)中学校

卒業生一、五八八、二二七人のうち、四六%が就職し、四一%が上級学校へすすみ、残りの一三・七%が無職および消息不明の者となっている。

就職者中、男五六・七%、女五八・九%が農業に従事しており、他の産業部門への就業者を大きくひきはなしているのが、前年にひきつづき注目される。

なお、各地の公共職業安定所を通ずる、中学校新規卒業生への求人数をみると、一九四九年においては二月から六月までの間に二三九、三一〇人であったのに対し、一九五〇年の同期間には一六九、三三四人にすぎなかった。しかも求職数は一九四九年において二一一、七一九人であったのに対し、一九五〇年には二九六、九五〇人となっている。

日本労働年鑑 第24集 1952年版

発行 1951年10月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 時事通信社

2000年6月1日公開開始

---

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1952年版(第24集)【目次】 次のページ→ ■  
日本労働年鑑【総合案内】

---

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)

---